書きことばにおける「語りかけ」は何のために用いられるのか

保田　祥[†]（国立国語研究所 コーパス開発センター）
柏野　和佳子（国立国語研究所 言語資源研究系）
立花　幸子（国立国語研究所 コーパス開発センター）
丸山　岳彦（国立国語研究所 言語資源研究系）

Why Addressing Expressions are Used in Written Text?

Sachi Yasuda (Center for Corpus Development, NINJAL)
Wakako Kashino (Dept. Corpus Studies, NINJAL)
Sachiko Tachibana (Center for Corpus Development, NINJAL)
Takehiko Maruyama (Dept. Corpus Studies, NINJAL)

１．はじめに

書籍テキストの中には，著者が読み手に対して直接語りかけていると解釈できる文体がある（柏野,2010 など）．たとえば，直感的には「あなた」「みなさん」などのような呼びかけ表現や「ではないでしょうか」「だよね」といった，問いかけもしくは相づちを求める文末表現などを含むテキストがそれにあたる．これらはいわゆるハウツー系の書籍に見られやすい傾向があるが，この場合特定の表現の出現頻度がとりたてて高いとも限らない（保田ほか,2012b など）．本稿は，これらのテキストを「語りかけ性」があると呼ぶ.

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）に収録されている図書館サブコーパスの書籍サンプル（全 10,551 サンプル・28,892,944 語）に，文書分類の観点から人手で情報を付与する作業を実施した（柏野・奥村,2012）．付与した観点の一つにこの「語りかけ性」（とてもある・どちらかといえば・特にない：3 段階）がある．この作業結果から，「語りかけ性」は，話しことば的なテキストから受け取られるというのでもないことが明らかになった（保田ほか,2012a）．書きことばであっても話しことば的であると判断されるテキストには，リアルタイム性と関わるフィラーや言いよどみ，音声的変化に関わる融合などが現れているが,「語りかけ性」があるとされるテキストにはその種の特徴は現れにくいのである．安藤（2012）は，小説における再現的提示の手法とは，二人称的世界が顕在しないことであるとし，読み手に語りかける言文一致の形がありえたならば,「言」に近い文体が創出されたかもしれないと述べる．すなわち「語りかけ性」は，既存の「言文一致」の範疇にはない表現ということになるのだろう.「語りかけ性」のあるテキストとは，書きことばの形式を保持しながら，疑似的に対話を導入しているテキストであると考えられる.

以下の例は,「語りかけ性」が「とてもある」と判断されたテキストである．特徴的と考えられる表現（保田ほか,2012b）に下線を施した.

> 1）ここに六〇メートル×六〇メートル×六〇メートルというまったくの箱型の巨船の姿が浮かんでくるではありませんか。「ギルガメシュ叙事詩」は今から四〇〇〇年以上前のものと考えられますから、まさに私たちは単位という糸を伝わって、一気に人類の文化の源までさかのぼる感じです。つまり、人類の文明の発祥とともに、単位は存在していたわけで、文明にとっては単位は切っても切り離せないものだったということがわかります。ということは、単位を考えることで文明そのものを考えていく糸口もつかめるかもしれない、という期待を抱かせます。ま、この点は、あまり気負わずに、ボチボチと本書の中でも試みてみることにしましょう。（高木仁三郎「単位の小事典」）

[†] yasuda_s@ninjal.ac.jp

書きことばでありながら，疑似的な対話形式が用いられているということは，著者が語り手としてテキストから現れているスタイルだとも言えよう．著者が前面に出現しているとすれば，「語りかけ性」のあるテキストが，同時に著者の「主観」が語られるテキストと認識される可能性が期待される．「語りかけ性」のあるテキストが「主観的」であると判断されるのならば，「語りかけ性」は著者の「主観」を語るために用いられているということになる．そこで，本稿は「小説以外の文章の内容」（とても客観的・どちらかといえば客観的・どちらかといえば主観的・とても主観的：4 段階）の観点についての情報付与作業結果を用いることで，「主観的」であることと「語りかけ性」との相関があるのかを調べる．「語りかけ性」が「主観的」と判断されることと関わりがないならば，いったい「語りかけ性」が何のために用いられているのかを考察したい．

２．データ

本稿は，文書分類結果を用い，「語りかけ性」があると判断されたテキストと，「主観的」であると判断されたテキストが，どのように関わっているのかを確かめた．

BCCWJの図書館サブコーパスに含まれる書籍の 10,551 サンプルをランダムに並べ替え，6 人の作業者が文書分類を行った結果を用いた．調査にあたっては，作業結果から約半数をランダムに選び（5,652 サンプル[1]），小説には会話文を含む場合が多いため，小説を全て除いたサンプル（3,750 サンプル・11,630,970 語）を調査対象データとした．

作業者は判断に際し，その根拠等に関するコメントを適宜記述しており，個人によって量は異なるが，それぞれの作業サンプル数の 2%～5%のコメントが得られている．

「語りかけ性」についてのアノテーションは，作業者が「とても（語りかけ性が）ある」「どちらかといえば（語りかけ性が）ある」「とくに（語りかけ性は）ない」の 3 種類の選択肢から該当すると判断した一つを選択する．作業の結果，「とてもある」は 486 サンプル（1,387,665 語・本稿で扱うサンプルの 13.0%），「どちらかといえばある」が 805 サンプル（2,347,671 語・同 21.5%），「とくにない」が 2,459 サンプル（7,895,634 語・同 65.5%）得られた．同様に，「小説以外の文章の内容」についてのアノテーションは，「とても客観的」「どちらかといえば客観的」「どちらかといえば主観的」「とても主観的」の 4 種類の選択肢から一つを選択する．結果，「とても客観的」は 704 サンプル（2,313,220 語・本稿で扱うサンプルの 18.8%），「どちらかといえば客観的」が 1,485 サンプル（4,741,194 語・同 39.6%），「どちらかといえば主観的」が 1,014 サンプル（3,160,066 語・同 27.0%），「とても主観的」が 547 サンプル（1,416,490 語・同 14.6%）得られた．

サンプルの形態素解析には，MeCab 0.993＋UniDic2.1.0 を用いた．分析結果に示す品詞情報や語彙素等の要素は，解析結果に基づく．

３．結果：「語りかけ性」と「主観的」「客観的」の判断

情報付与作業結果を分析したところ，「語りかけ性」のあるテキストが，主観的であるとは受け取られるのでもないことが明らかになった．

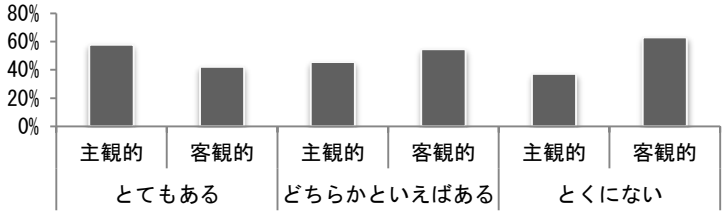


図１　「語りかけ性」の有無と「主観的」「客観的」分類

[1]対談，座談会をはじめ，Q&A 形式，図解，用語解説など形式的に特徴のあるサンプルは，分類対象外（非対象）とされ，本サンプル数には含まない．アノテーション作業者は，分類対象としたサンプルのみ観点付与を行っている．

図１の通り，「語りかけ性」の有無と「小説以外の文章の内容（主観的～客観的)」の判断に関係があるとは言えない．

次に，「語りかけ性」と「小説以外の文章の内容（主観的～客観的)」それぞれの分類群の NDC 分布（図２）・C-code 分布（図３）をあわせて見ておく．いずれかの群で，類似した分布が見られているということはない．

「語りかけ性」は，NDC3・4 番台（社会科学・自然科学）や C-code の「専門」・「実用」の分野で多く用いられている傾向があり，この傾向は同様に「客観的」なテキストに見られている．また，「客観的」～「主観的」の判断においては，NDC の 7 番台（芸術・美術）と 9 番台（文学）が「主観的」と判断されるに従って増加することや，C-code で「主観的」と判断されるのがほぼ「一般」向けであることなどが顕著な特徴と言える．なお， NDC9 番台については，「語りかけ性」が「ない」と判断されるに従って増加する傾向が見られ，「主観的」で「ある」ことと同傾向でもある．

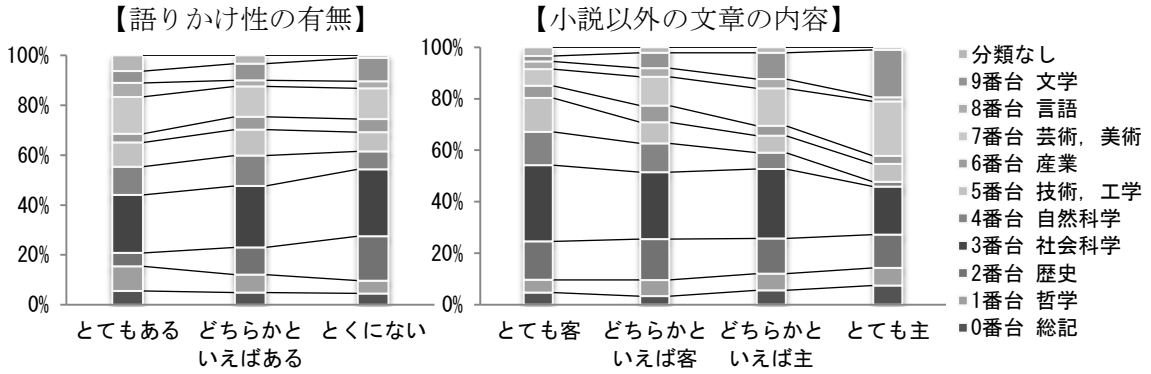


図２　分類群別 NDC 分布

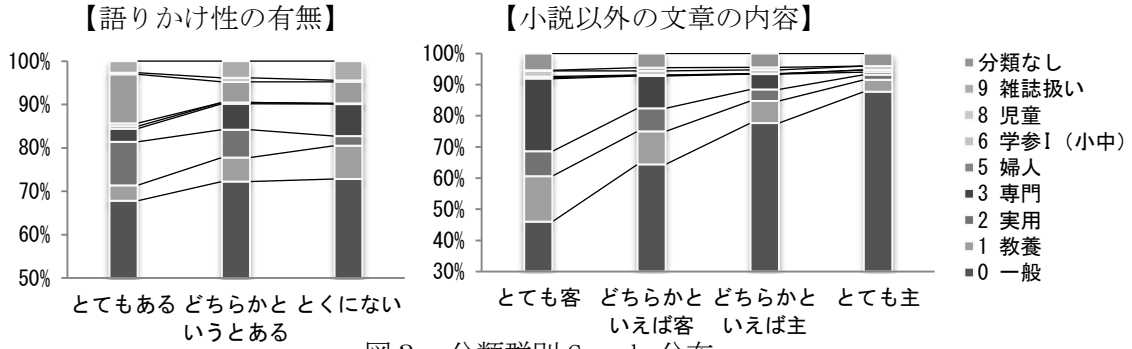


図３　分類群別 C-code 分布

アノテーターコメントの分析により，「内容が哲学・体験談・手記・自伝」であるため「主観的」と判断した記述（内容に重きを置く作業者）や，「内容は主観的であるが表現は客観的」であるとして「客観的」と判断した記述（表現を重視する作業者)，「主観的な意見もあるが，客観的な説明の量が多い」として「客観的」と判断した記述（分量を考える作業者）などのように，個々人で判断基準に差異のあることが推測された．そのため，作業者によって判断に差が生じる場合がある．そして，とくに「語りかけ性」があるとの判断が作業者間で一致した場合，「主観的」「客観的」の判断に差が生じやすい傾向が見られる．同サンプル群における「主観的」「客観的」の判断における 3 人のアノテーターの判断が完全に異なる割合は，11%[2]であったが，「語りかけ性」があると判断された場合のサンプルで

[2] 図書館サブコーパスからランダムに選んだ 485 サンプル（3 人のアノテーターが同サンプル群に観点付与を行った）について，「小説以外の内容」として観点付与が行われた 253 サ

は,「主観的」「客観的」判断の不一致率が 28%に及んだのである.

アノテーターコメントで「主観的」・「客観的」の判断に迷った旨が記載されている際,「解説書・アドバイス・勧誘」であるとの記述が目立っている．これらの書籍タイトルを見ると,「読本」「～の本」「～法」「～バイブル」「～入門」「～知識」「～講座」などが大半であることがわかった.「語りかけ性」は，この種の実用書（いわゆるハウツー本（啓蒙書・指導書）の類）に見られる傾向が確かめられている（保田ほか, 2012, 2013）．すなわち,「語りかけ性」があると感じられるテキストは,「主観的」・「客観的」の判断に迷い，作業者間でも判断の不一致が生じる可能性がある.

それでは，なぜ「語りかけ性」があると感じられるテキストで,「主観的」・「客観的」の判断に迷いが生じるのか.

次節からは,「主観的」「客観的」と分類されたサンプル群に特徴的な表現を調査し,「語りかけ性」との関係を明らかにしたい．読み手が著者の主観性を感じる表現と「語りかけ性」があると感じる表現の異同から，テキストにおいて何のために語りかけるという表現手法が用いられているのかを考察する.

４．考察

４.１　「語りかけ性」の有無群に出現頻度の高い表現と「主観的」「客観的」群

語などの要素の出現頻度を見ると,「語りかけ性」があるとされるテキストと,「主観的」とされるテキストに類似性がある表現がある.「語りかけ性」があるとされるテキストに頻度の高い要素[3]には，助動詞の「です」「ます」があり,「語りかけ性」がないとされるテキストに頻度の高い要素には助動詞の「た」がある（保田ほか，2012a）．しかし,「主観的」「客観的」群で大きな差異は見られない.

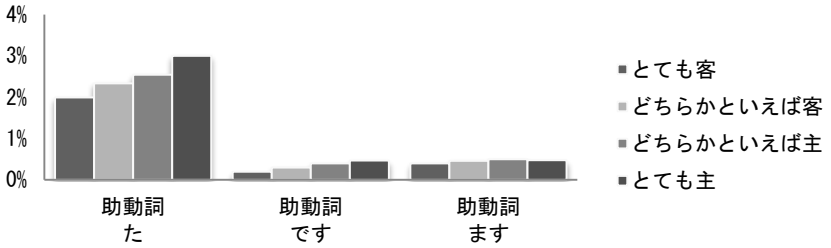


図４　「主観的」「客観的」群における「語りかけ性」の有無群に出現頻度の高い表現

ンプルを対象に分析を行った.

[3] 「語りかけ性」有無群において，出現頻度で有意差の見られる要素はほとんど得られなかった．アノテーターが「語りかけ性」があると判断するのに用いたと認識する要素は,「語りかけ性」を形成する表現と言えるが，個別の出現頻度では影響が捉え難い．そもそも出現頻度を確認することも難しい．まとまった量のテキストにおいて，種々の表現の総体的な出現量と，文脈が要されることがわかっている（保田ほか, 2013）.

以下に示す例は,「語りかけ性」があるとされるが, 直感的に特徴的と考えられる表現や, 出現頻度の高い表現が見つからないテキストであるといえる．アノテーターのコメントから得られた「語りかけ性」に関わると考えられる表現類に下線を引いた.

例）カップリングコンデンサが大きい場合、オレンジ色の側の配線が同じようにＩＣソケットの足にハンダ付けできればどのように付けても構わない。完成図を見てもらえれば分かると思うが、コンデンサの左の部分は大きくスペースが残してあるので、アキシャルリードのものも基板上に取り付け可能だ。また、大きすぎて基板からはみ出したとしても、特に問題はない。なお、後で説明するが、このコンデンサは無しにも出来る。（酒井智巳「はじめてつくるプリアンプ」）

また,「語りかけ性」のあるテキストでは,相手に対する希望を表す「ほしい」「たい」(「～してほしい」「～されたい」など）や，相手に対する婉曲化の表現として「思う」「感じる」（「～するべきだと思う」など）を用いる傾向がある（保田ほか,2012b).

この種類の表現は,「主観的」と分類されたテキストにも出現頻度が高いため，類似の表現群が現れる「語りかけ性」があるテキストは,「主観的」と分類されやすくなる可能性が考えられる．図５に「主観的」「客観的」の判断において，出現頻度に特徴的である表現群[4]を示した．但し，頻度が同程度であっても,「主観的」と分類されるテキストで用いられている場合には，文脈的に用法が異なっている可能性がある.「とても主観的」と分類されたテキストの「思う」は，典型的には「それは今につながっているんだけど，やっぱり非常によかったと思う.（坂本龍一「Seldom-illegal」)」のように用いられる.「語りかけ性」がある群のような婉曲化目的というより，個人的な感情や考えを述べていると読める.

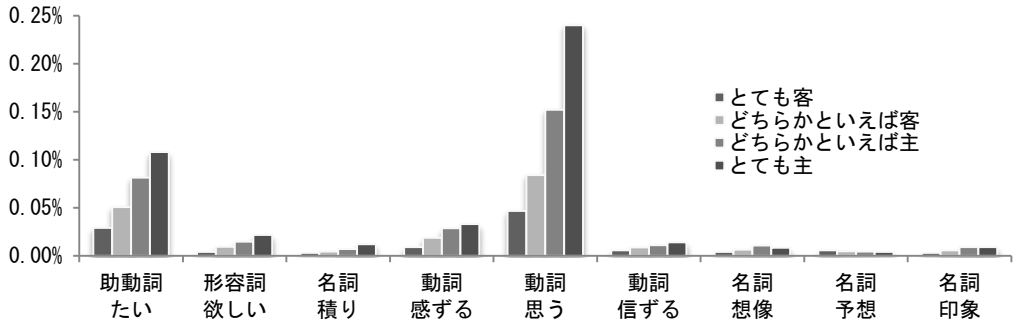


図５　「主観的」「客観的」群に特徴的である表現群

４.２　「主観的」群に特徴的な表現：求められる客観性

平叙文の使用の背後には，常に何らかの問いが存在している（中村,2002）とすれば，読み手に向けて発せられているテキストは，何らかの解答であるという期待を持って受け取られるのだと考えられる．そのため，読み手の同意もしくは共感を得ることが，テキストに求められるはずである.

実際に，アノテーターの「主観的」であるとの判断コメントは,「根拠のない主張である」「事象を理由なしに断定する」「推測が多い」のように，批判的なものが得られている.「客観的」であるとのコメントには「裏付けがある」「納得できる」などの肯定的なものが並び,「主観的」でないことへの批判はないのである．読み手がテキストに対して何らかの解答を期待しているためであろう．但し，書籍タイトルに「体験記」「日記」などが含まれるなど，明らかにエッセイ類と予測されるテキストについては，コメントには「主観的」と判断した際の根拠が記述されるに留まり，否定的な記述は見つかりにくい．エッセイなどは,「主観的」であることが前提とされ，読み手に求められる解答が共感である可能性が考えられる．読み手の要求するものについては，テキストのジャンル性にも関わる.

なお，分類されたテキスト群毎の出現頻度を見ると，断定や推量に関係すると考えられる表現は，図６の割合で出現している.「主観的」と判断されるテキスト群において，意志推量形（「～だろう」など）や「らしい」「そうだ」のような表現はもちろん，断定の助動詞「だ」も多く用いられているのである.「主観的」なテキスト群は，断定や推量が多いというアノテーターのコメントと一致していると言える.

---

[4]図書館サブコーパスからランダムに選び出した約 500 のサンプルのうち「主観的」「客観的」分類について 3 人の作業者の判断が一致したサンプル（51 サンプル・174,961 語）の分析を行った結果から，品詞・活用形・語彙素において，すべての要素の出現頻度について検定を行い，有意差の見られた表現を確認した（調査手順は（保田ほか，2012a）と同様）結果の一部である．その他の表現は注 5 も参照.

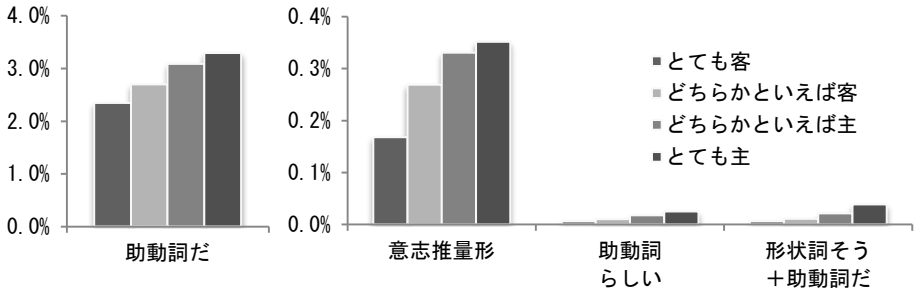


図６「主観的」群に特徴的と考えられる表現

４.３　「客観的」なテキストであるために

それでは,「客観的」であると判断されるテキスト群は，どのような表現が用いられているのか．本稿は，語種と受動文,「という」の伝聞表現に着目し,「主観的」「客観的」群別の出現率などから，どのように客観化が行われているかを確かめる．

４.３.１　客観化（１）: 数値（年号・具体的型番）や具体的名称の割合が多い？

４.２で見たように，読み手はテキストに対して根拠や理由を求めていることが考えられる．そのため，書き手はデータを示すことで客観化を行うはずである．図７に,「主観的」「客観的」分類群別の，普通名詞・数詞・固有語の出現率を示す．特に数詞で「客観的」群での出現率が顕著となっていることがわかる．

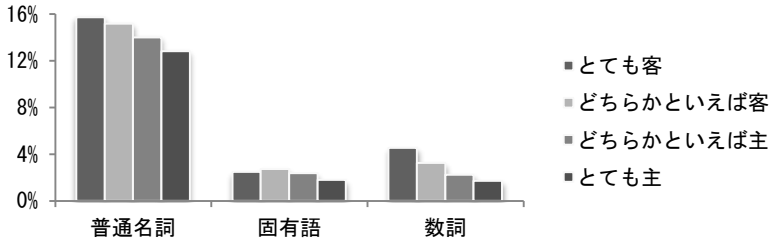


図７　「主観的」「客観的」群別の具体的データ関連要素出現率

４.３.２　客観化（２）: 降格受動文による客観化を行う？

益岡（1991）は，受動文を属性叙述（例：花子の家はビルに囲まれている）と事象叙述に分類し，事象叙述について，受影受動文（例：私は親に叱られた）が主体の経験[5]を表現する主観的な表現で，降格受動文（例：始業のベルが鳴らされた）が客観的表現であると述べている．アノテーターのコメントにも,「報告されている」「評価される」のようなサ変動詞による受動文が，客観的と判断した根拠とされていた旨が散見された．

そこで,「客観的」群と「主観的」群における受動表現の出現率をサ変動詞[6]の受動表現（「される」）について調査した．「される」の出現率は,「客観的」群で 0.34%（23,677 例）「主観的」群で 0.19%（8,599 例）であり,「客観的」群で高くアノテーター判断と一致していると言える．

図 8-1 に,「とても客観的」「とても主観的」二つの分類群からランダムに取得した 900 例の「される」用例を,「属性叙述」と「事象叙述」の「降格受動」「受影受動」に分類した割合を示す．降格受動と受影受動の割合は，客観的と主観的の分類群で明らかに異なっ

---

[5]動詞の「遣る」「呉れる」「仕舞う」「貰う」でも,「主観的」「客観的」群に差が見られることがわかっている．本文末参考図参照．

[6] 本稿で扱ったサンプル全体における受動表現は，93,873 件あり，うち「される」は 32,275 件と 34%にあたる．

ており，益岡（1991）の指摘に沿う結果となっている．

また，降格受動については，背景化されている動作主を，「私」（例：原因が推定される・場面が想定されるなど），「他の誰か」（例：問題が指摘される・明らかにされるなど），「特定の誰か」（例：商品が値下げされる・遺跡が発掘されるなど），「一般的（不特定の人々）」（例：人命救助が優先される・性能が要求されるなど），「誰かによる何か」（例：金額が記載によって計上される・権利が法に規定されるなど）と分類した．図 8-2 にその割合を示す．動作主が背景化されている中でも，主観的群で動作主が特定されやすく，客観的群では動作主が一般的な例が多いと言える．

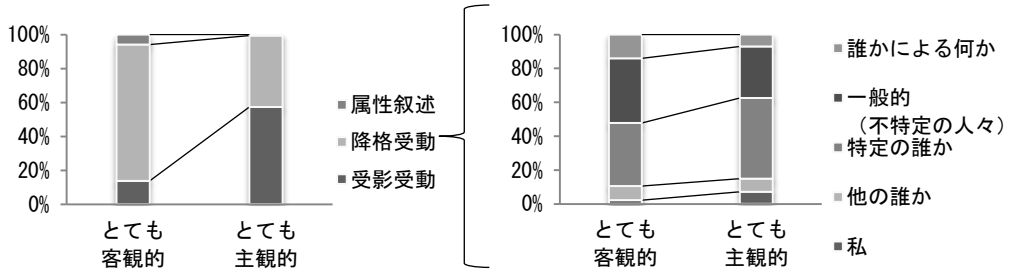


図 8-1　「主観的」「客観的」群別受動文種　　図 8-2　背景化された動作主

４．３．３　客観化（３）：伝聞（「という」）による客観化を行う？

主張の裏付けとして，データの他に引用などを用いることが考えられる．そこで，ここでは伝聞の「という」を用いた表現に着目した．

「という」の頻度[7]のみでは，「とても客観的」群で 9,355 件（0.8%），「とても主観的」群で 8,919 件（1.3%）であり，「とても主観的」に多いということになる．

しかし，「語りかけ性」との関連では，「とても（語りかけ性が）ある」群のうち「とても客観的」「とても主観的」群に出現した「という」2,000 件について調査したところ，このうち文脈上，伝聞（人が～「という」・「という」人がいる・「という」話であるなど[8]）として用いられていたのは，「とても客観的」群で 6.0%，「とても主観的」群で 1.7%であり，伝聞の用例頻度は，「とても客観的」群に多いと考えられる．「語りかけ性」がある群では，「という」を伝聞として用いることで，客観化を行う例が増加する．

４.４　客観性と「語りかけ性」：「語りかけ」は何のために用いられるのか

「語りかけ性」は，「主観的」「客観的」どちらと判断されるテキストからも受け取られる性質であり，「主観的」であることと語りかけることは相関があるとも言い難い．但し，「主観的」と判断されるテキストと類似した要素を含むことから，読み手によっては，語りかける著者が感じられることが，「主観的」と受け取ることもあると考えられる．

読み手に語りかけるという「語りかけ性」は，書きことばにおいては，本来表に現れる

---

[7]「という」を多用するサンプルも見られる．
例）（略）ただそういう不運が生じたということなのだ，ということでしたが，もっと深いなにかがあるのかもしれない，という気もしました．（略）あなたは，なんの理由もなくなにかが起こるという考え，この宇宙はでたらめなのだという考えを，受け入れることができるでしょうか？（H・S・クシュナー（著）／ 齋藤武（訳）「なぜ私だけが苦しむのか」）

[8]1）ギリシャの歴史家ヘロドトスの記述によると，（略）人々が集まったということです．（ユーリィ・ドミトリエフ（著）／佐藤靖彦（訳）「人間と動物の関係」）
2）オルテリウスが，手本にしたという日本地図（清水靖夫「地図で見る世界の形の移りかわり」）
3）『説文通訓定声』をみると，（略）差が出るためだという．（鳥越憲三郎「弥生の王国」）
4）シーザーは（略）失望を隠せない表情をしたという．（谷沢永一「人間通と世間通」）

ことのない著者が現れているのであり，著者の主張が露わであるともいえる．以下に，「語りかけ性」があり，「主観的」でもあるとされる例を示す．「語りかけ性」「主観的」に関わると考えられる表現部分に下線を引いた．

2）私は政治家小泉純一郎には、ほとんど興味がありませんが、人間小泉純一郎には深甚たる興味があります。それは小泉氏が、今日の日本人の一つの典型、つまり徹底して自己愛にとりつかれた人間であり、しかもそれを貫徹することに成功している、今のところそのように見えるということでしょう。自己愛が強いというのは、我が身が可愛いということではありません。小泉総理は、いつでも自分の生命を投げ出す覚悟がある、と私は確信しています。（福田和也「総理の資格」）

しかし，多くのテキストは読み手に何らかの根拠ある解答（少なくとも同意や共感）を求められており，「客観的」であることが期待されている可能性がある．「客観的」であるためには，根拠となるデータを示し，あるいは主体の経験を表す受影受動文の使用を避けることなどの客観化を行うことになる．また，伝聞など，客観化を行う表現手法のうち，特に「語りかけ性」があるテキストに用いられているものも見られるのである．書きことばに対話形式を持ち込むゆえに，「客観的」であることを明らかにするため，客観化に関わる表現が用いられやすい可能性があるのだろう．以下に，「語りかけ性」があり，「客観的」であるとされる例を示す．客観化に関わると考えられる表現に下線を引いた．

3）このようにして、はじめて異なる生物の遺伝子をもち合わせた新種のＤＮＡがつくられたのです。ヒトの三十億のＤＮＡ塩基対の中には、五～十万の遺伝子が存在するといわれています。この中から目的とする遺伝子を取り出す方法をクローニングと呼びます。クローニングはどのように行なうかを見てみましょう。（略）つまり、ファージとヒトのＤＮＡのキメラを大腸菌に感染させると、大腸菌の中で増殖して、百倍以上にもなって大腸菌を溶かして外に出てくるのです。（石浦章一「生命のしくみ」）

また，「語りかけ性」は，「客観的」なテキストに多い NDC3・4 番台（社会科学・自然科学）や C-code の「専門」・「実用」の分野で多く用いられているという特性が見られる（上の例文 3 は，NDC4 番台に分類されるサンプルである）．これは，NDC3・4 番台や C-code の「専門」・「実用」分野に多く含まれるハウツー系書籍に「語りかけ性」が用いられやすい（保田ほか,2012b）ためでもあろう．いわゆるハウツーものとは，「趣味や実用的な事柄の簡便な習得法を説いた書物（スーパー大辞林 3.0)」である．すなわち，読み手が予め目的意識を持ってテキストを読むことが明らかである．よって，「客観的」に解答の要求に応えることを，予め明らかにしているのがハウツー系書籍であるといえる．

以下の例文 4 に，C-code の「実用」に分類されるサンプル，例文 5 に C-code の「専門」に分類され，かつタイトルからハウツー系書籍であることが推測されるサンプルを示す．例文 4・5 ともに，「語りかけ性」があるサンプルという判断がなされている．「語りかけ性」に関わると考えられる表現に下線を引いた．

4）ここでダブルウィッシュボーン式のホイールアライメトについて考えてみましょう。Ｐ．１８９の図を参照しながら読み進めて下さい。まず４本の棒が平行四辺形に結ばれているとします。その平行四辺形の短辺の一方を垂直に固定して他方を上下に動かすと、平行四辺形は上下に変形します。（略）そして残るのは上下アームと考えることができます。（橋口盛典「クルマの基本メカニズム」）

5）したがって，エンジン回転数が上昇した場合，フィールド電流（励磁電流）を減少させて発生電圧を一定に保つためのボルテージ・レギュレータ（ｖｏｌｔａｇｅ　ｒｅ

ｇｕｌａｔｏｒ電圧調整器）を設けねばならない。オルタネータ用のレギュレータは，一般にボルテージ・レギュレータのみで，カット・アウト・リレーはもちろん，カレント・リミッタも特殊な用途の場合を除いて必要ではない。カット・アウト・リレーが不要なのは，オルタネータに取付けたダイオードに，バッテリからの逆流を阻止する働きがあるからである。（竹尾敬三「小型水力発電機製作ガイドブック」）

語りかけるという表現手法は，書き手が読み手の求める解答を提示することを謳い，教示的態度を強調する際に用いられやすいものと考えられる．その場合，解答として「客観的」であることが要求され，著者が現れているという印象があっても，「主観的」であると受け取られないような客観化のための表現が用いられることになる．

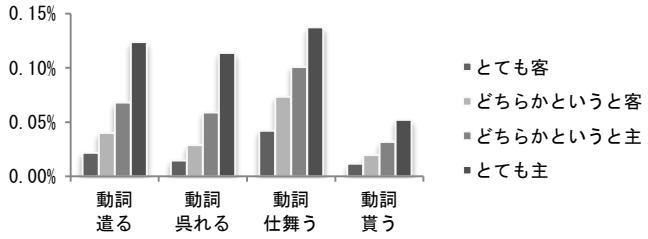
５．まとめ

読み手に「語りかけ」るテキストが，いったい何のために用いられているのかを考察した．「語りかけ性」があるテキストは，著者が前面に現れているということであり，「主観的」であると判断されるのではないかという仮説から，「主観的」あるいは「客観的」と判断されたテキスト群に特徴的な表現やアノテーターコメントの分析を行い，「語りかけ性」との関係性を探った．

結果として，語りかけるという表現手法が，読み手から要求される「客観的」な解答を提示することを示すために用いられやすいということが考えられる．

読み手の求める解答を付与すると明示するために，疑似的な対話を設定し，読み手に相対する書き手が現れることで，教示的態度を強調する．「語りかけ性」があると判断されるテキストでハウツー本が多くを占めるのは，そのためであろう．

また，求められる解答はテキストのジャンルによって異なるが，「客観的」であることが望ましい場合が多く，数値データや，受動文・伝聞などの客観化の効果がある表現の用いられる傾向が見られる．よって，著者が現れていることが，必ずしも「主観的」なテキストであると認識される要因であるとは言えない．



参考図　特徴的動詞の出現率

文　献

安藤宏(2012)『近代小説の表現機構』岩波書店.

柏野和佳子(2010)「「直接的な語り」という表現スタイルをもつ書籍テキストの人手抽出の試み」『ことば工学研究会』35，pp. 63-72.

柏野和佳子，奥村学(2012)「書籍テキストへの分類指標人手付与の試み―『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の収録書籍を対象に―」『言語処理学会第 18 回年次大会』.

中村洋(2002)「「X は Y だ。」と「X が Y だ。」の意味の違いについて」『人工知能基礎論研究会』47，pp. 55-60.

益岡隆志(1991)「受動表現と主観性」仁田義雄(編)『日本語のヴォイスと他動性』pp. 105-121，くろしお出版.

松村真宏，河原大輔，岡本雅史，黒橋禎夫，西田豊明(2007)「メッセージの背後に潜む「問

い」の抽出」『人工知能学会論文誌』22, pp.93-102.
保田祥，柏野和佳子，立花幸子，丸山岳彦(2012a)「「語り性」を有する書きことばの典型例の分析」『第１回コーパス日本語学ワークショップ』予稿集，pp.139-146.
保田祥，柏野和佳子，立花幸子，丸山岳彦(2012b)「「語りかけ性」を有すると判断される書きことばの表現」『第２回コーパス日本語学ワークショップ』予稿集，pp.43-50.
保田祥，柏野和佳子，立花幸子(2012)「総体として印象を与える表現：「語りかけ性」を有すると判断する根拠」『ことば工学研究会』41，pp.3-10.
保田祥，柏野和佳子，立花幸子，丸山岳彦(2013)「アノテーターコメントを用いた「語りかけ性」分析の試み―頻度情報から捉え難いテキスト性質の解明に向けて―」『言語処理学会第19回年次大会』.

関連URL

国立国語研究所の言語コーパス整備計画KOTONOHA　http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha/
特定領域研究「日本語コーパス」　http://www.tokuteicorpus.jp/